

第14回JTB交流創造賞が決定

JTBは17日、「第14回JTB交流創造賞」(旧JTB交流文化賞)の受賞作品を発表した。地域に根ざした持続的な交流の創造と各地域の魅力を創出、地域の活性化に寄与することを目的とした賞で、地域(観光地)の組織・団体の取り組みを対象とした「組織・団体部門」では、最優秀賞に車いす紅蓮隊・カムイ大雪バリアフリーツアーセンターに車いす紅蓮隊・カムイ大雪バリアフリーツアーセンター「障がい当事者がリードする誰にもやさしいまちづくり」が選ばれた。優秀賞は、ふるさとのかかし親の会「かかしによる『日本のふるさと』の原風景」の再現、「奥播磨かかしの里」とNPO法人佐渡芸能伝承機構「祭りがつなく佐渡の現在・過去・未来―民俗芸能を通じた地域と大学の交流活動」が受賞した。



17日に開催された授賞式の様子

賞の意義と目的



JTB社長 高橋広行

まずは、受賞された皆さまにお祝い申し上げます。JTBグループは、JTBならではのソリューション(商品・サービス・情報および仕組み)の提供により、地球を舞台にあらゆる交流を創造し、お客様の感動・共感と呼び起こす「交流創造事業」を事業ドメインとして掲げ、グループをあげて第三の創業にチャレンジしております。2005年にJTB交流文化賞を創設し、今年度から名称を変え「JTB交流創造賞」として14回目を迎えることができました。交流創造賞の大きな特徴は、地域の独自性が生かされ、今後の発展が期待できる「持続可能な観光」を応援する賞だということです。

今後も受賞した地域の取り組みに対しては、表彰だけでなく、さらなる地域の発展につながるよう、商品化やプロモーションなどをJTBグループが全力でバックアップしてまいります。受賞地域の「これから」に、ぜひご期待ください。

「持続可能な観光」を応援

最優秀賞

障がい当事者がリードする誰にもやさしいまちづくり

車いす紅蓮隊・カムイ大雪バリアフリーツアーセンター

北海道旭川市



バリアフリーイベントの様子

格差のない共生社会を目指す

2005年秋、高校を卒業し、一緒に参加する障がい当事者の車いすユーザー3人が、障がい当事者仲間を増やす。2006年、旭川市に「カムイ大雪バリアフリーツアーセンター」が設立された。障がい当事者が参加しやすいイベントを開催し、障がい当事者がリードする誰にもやさしいまちづくりを実現している。この取り組みは、障がい当事者が自ら活動の中心となり、地域の人々との連携を深め、地域づくりの力として成長している点に評価される。

障がい当事者の雇用を確保し、その事業収入を財源に、バリアフリーツアーセンターを運営している。この取り組みは、障がい当事者が自ら活動の中心となり、地域の人々との連携を深め、地域づくりの力として成長している点に評価される。



五十嵐真幸 センター長

受賞の喜び

障がい当事者が自分たちで通常や観光客と交流するイベントを作る活動はほかにはない。自分たちの活動が評価されてうれしい。

障がい者に関する差別や仕事などいろいろな問題をイベントに掛け合わせてより良い取り組みにして、その結果、町がより暮らしやすくなるように、これからも頑張りたい。

優秀賞

かかしによる「日本のふるさとの原風景」の再現…「奥播磨かかしの里」

ふるさとのかかし親の会

兵庫県姫路市



岡上正人会長

受賞の喜び

故郷のテーマパーク「かかし祭り」のようにかかしをすらすらと並べるのではなく、バス停でバスを待っていたり、荷車を押して物運んでいたり、そういった田舎の昔の風景をかかしで再現し、「故郷のテーマパーク」というイメージで取り組んでいる。

似たような過疎の田舎は日本中あちこちにある。にぎわいつくりの先行事例になればいい。



奥播磨かかしの里の景色

空き家や古民家も活用

兵庫県姫路市安富町の、住民14人の関心で取り組む。80代後半の人が多くを占める集落「かかし」。「かかしの教室」「野外カフェ」などの取り組みや、「ふるさとのかかし(商標登録)」による1300体の「かかし」が通年で設置され、冬の来訪者も訪れるようになった。

近年では空き家、古民家を活用した「ふるさとのかかし」が、過疎化が進む中山間地域で、山間の景観や民家・農具を活用しながら、柔和な表情のかかしが、日本の原風景をストーリー性高く再現し、多くの人を誘客するコンテンツを創り出した。

「住民が暮らしやすい」ということが重要である。この「かかし」の取り組みが成功要因となっている。

過疎化の問題を同様に取り組む他地域でも展示が広がっており、今後の展開に可能性を感じさせる点も良いと評価した。

優秀賞

祭りがつなく佐渡の現在・過去・未来―民俗芸能を通じた地域と大学の交流活動

NPO法人 佐渡芸能伝承機構

新潟県佐渡市



松田祐樹理事長

受賞の喜び

交流地域を増やしたい。私たちの団体はただ見守るだけ。主役は芸能を伝承する地域の人々だ。その人たちの日々の活動が認められたことが一番うれしい。

佐渡で芸能を伝承している約120の地域のうち、学生と交流しているのは15地域しかない。この受賞をきっかけに私たちが関わってくれる地域がもう少し増えるとうれしい。



たから芸能祭の披露

「評価のポイント」 祭りに関心を持つ若者たちが、他の地域から積極的に交流活動を行う試みは、民俗芸能を継承する担い手育成のためにも、観光を持続させるためにも重要である。

高齢化した祭りの担い手が、大学生が毎年やって来ることを楽しみに、未来志向で祭りをとらえるようになり、住民の誇りが醸成されていった点を評価する。

芸能を未来につなげる

「佐渡にとって、祭りと芸能は、そこで暮らす人々のアイデンティティであり、人々をつなげる地域の『根』として、2008年にNPO法人を設立。新潟県内はもとより、県外の大卒などとの交流プログラムを通じた芸能の継承に取り組む。」

「評価のポイント」 担い手不足に悩む佐渡島内の集落と地域連携活動や民俗芸能に関心を持つ大学を結びつけることで、祭りのにぎわいを取り戻す。

こうした取り組みを佐渡島全域に発展させ、120以上の集落で伝承されている「芸能」を未来につなげていくことを目標としている。

JTBは、地域・文化・人との新しい出会い、「交流創造」を支援・推進します。

JTB交流創造賞

JTB交流創造賞は、地域に根ざした持続的な交流の創造と地域の活性化に寄与することを目的として、2005年に創設されました。以来、10年以上にわたり、地域・文化そして人との新しい出会いを応援すると共に、受賞地域を様々なかたちでバックアップしています。第14回「JTB交流創造賞」では、多数のご応募をいただき、ありがとうございました。これからも本賞を通じて、様々な交流の広がりや地域の発展に寄与してまいります。